

能登半島地震のあった2024年

15期 舟田節子)

「座っていて下さい！」

2024年1月1日16時10分、某グループホーム二階での保安業務についていた私は、そう叫んでいるしかありませんでした。

メディアは、撮りためたお正月番組を流すだけの、最低限のスタッフ体制でいたのでしょう。TVは映り続けていましたが、地元といえども、「津波の怖れがあります。逃げて下さい！」の連呼以上の情報は、入らず…でした。

20時、リフォーム済みで大ごとにならないはずの我が家にいそいそ帰宅し、無事な夫を確認。「見て来いや」に、元々、半物置化している「節子の部屋」を覗くと、大散乱状態になっていました。(後日、「一部損」に査定されました。)

ざっと親族の無事を確認した後は、さて、どこまでを安否確認したものやら？5日になって、篠笛の初稽古で、ようやく外出しました。師匠宅は卯辰山寺院群を通過の山頂近く…崩れた石垣、土塀、累々と倒れた墓石。

ほんの一部はお盆を期に修復されたものの、ほとんどは、今も、修復されてはいません。



《東山 真成寺横の石垣 2024.1.5》

恒例、一年の山シリーズへいきます。今回は、以下のようなリストアップになりました。

11月号…小豆島 星ヶ城山

12月号…金時山

1月号…クレイドルマウンテン

2月号…太郎坊山他

3月号…アンコールワット

4月号…文殊山

5月号…天上山

6月号…尾瀬ヶ原・尾瀬沼

7月号…飯豊山

8月号…鹿島槍ヶ岳

9月号…剣岳

10月号…横倉山



《タカハリ ディランとミナピン氷河 2005.8.10》

「小豆島」…星ヶ城山 816m は、瀬戸内海の島々の最高峰です。大阪城の石垣も産出した花崗岩の島ですが、全国で10万柱に及ぶ三角点の石柱の9割がこの産だそうです。

小豆島に関しては、オリーブと、壺井栄の『二十四の瞳』のみが知識。三奇勝の一つ「寒霞溪」が、島の崖地であるのも含め、実に知らないことばかり。ロープウェイを避け、裏8景をめめつつ三笠山へ登り、佐々木信胤の山城跡と言われる星ヶ城山へ回って、表12景を降りました。小豆島八十八ヶ所は岩窟寺院が多く、そこが「八日目の蟬」のロケ地にもなっていました。

この時は、まだコロナ対策をとっていたのですが、島内巡りに使わざるをえなかった「マイクロバス」の「密」で大量感染がおきたようでした。

「金時山」…東京発忘年山行に参加する際、一日早出をして、「1213mの山に12月13日に」のノリで登った、箱根外輪山の最高峰です。

新田次郎の「強力伝」のモデルになった小宮山正氏の、娘の妙子さんが経営する金時茶屋が、頂上にあります。昭和天皇が「金時娘」と命名されたことからの看板娘は、13歳から茶屋の経営を引き継いだそうです。

「(私の顔を見ただけで) 買わないんだったら出てって！」と威勢のよかった彼女も、店を息子に譲り、施設入所をされたとか。麓に路線バスが2社入っていて、縦走しやすいです。

「クレイドルマウンテン」…冬は基本的に花もないので、海外の山を紹介する機会にしています。オーストラリアの南に浮かぶ島タスマニアの、氷河に削られた揺りかご状の山で、周辺トレッキング路を歩きました。学習塾閉室・非常勤講師開始記念のつもりのこの時は春休み中に開催決定ならよし…の選択でした。

いわゆる全北区とされる植物相だけしか見たことがなかったので、オーストラリア区の植物群は、まさに異世界でした。もちろん有袋類ばかりであり、動物園はなくて保護施設ばかり。さらには上陸してくるフェアリーペンギン。西には海しかないゆえ、「世界で最も水と空気のきれいな島」と言われれば、そうかも…。

「太郎坊山」…滋賀県、湖東の平野には、巨大カルデラの名残とされる丘陵や台地が点在します。そこに聖徳太子の伝承がからみ、岩山ゆえの、磐座信仰と神体山信仰発祥の地…の由来もからんだ太郎坊宮が鎮座しています。

お宮から続くハイキングコースには、米相場を伝えるための旗振りの岩塔があり、新幹線などの大動脈が走る展望が広がり、下れば、「万葉の森」のある蒲生野です。

350m 前後の峰の縦走は、体の鈍った春先向きです。

「アンコールワット」…WHO が急事態宣言終了としたのが、2023年5月5日のこと。でも、まだ中国との障壁があって、小松空港発上海便による格安版アンコールワットの募集が掲載されたのが、12月でした。「やっとコロナ前にまで戻ってきたんだ」の実感を持った途端に地震勃発。不謹慎にも瓦礫映像がダブってしまいました。

500年にわたった繁栄ののちに、埋もれた遺跡は、150年前に発見されました。修復されたものが、アンコールワットやアンコール・トムです。そのかたやにはスポアン（榕樹）がからんだ寺院や、修復しないまま公開としている遺跡…。周辺には「地雷注意」の看板が…。

いっこうに進まない瓦礫の撤去…。しかしながら、別の国では、瓦礫の山を今日も産み出し、かつ周囲はその横暴と悲惨を止められないのです。鬱が漂います。

「文殊山」…大昔、「泰澄太子ゆかりの山」の取材のために、やむなく登った低山(365m)でした。養老元年(717年)に開山されたと伝承の、越前五山の一つです。



《ベン・メリアにて モデル撮影中 2014.3.26》

麓には広い駐車場が完備され、春の花の山としての人気を集めています。「北陸で登られた山ランキング3位」とは、誰がカウントしたのか？標高が低くても、縦走の場合には、車を回してもらえるツアー利用が便利です。

「天上山」…富士箱根伊豆国立公園の伊豆諸島で、現役火山も多い中、岩崎元郎の『新日本百名山』にも、田中澄江の『花の百名山』(NHK 放映版)にも選ばれているのが、神津島の天上山です。そんな知識もなかったのに、ツアーが出れば「行ってこなくては！」になります。

多様な植生があり、パイオニアとしてのオオシマツツジ(ヤマツツジの島嶼変異型)などが「緑の島」を形成しているのが有名です。神が集まる島とされたのは、黒曜石の産地も絡むようです。古代は、海ならこそどこへも繋がるのです。



《天上山 オオシマツツジによる緑の島 2023.4.25》

「尾瀬ヶ原・尾瀬沼」…ミズバショウなら白山麓のどこにもあり、わざわざ行かなくても…。しかし「天下の絶景」なるものをパスも、いかがなものかと、結局、開山日に行ってきました。また、ちょうど機関誌の100号記念にあたっていましたので、「自然保護発祥

の地」とされる尾瀬が相応しいとも思ったのです。

何度ものダム開発計画や自動車道路建設計画の、阻止や中止に平野家三代は奔走します。三平峠に迫っていたブルドーザーは、環境庁初代大石長官の蛮勇的英断により、止められました。しかし、その報を聞くことなく、長靖氏は遭難凍死をしてしまいます。それは私が2回生だった冬のことでした。

かつての開発者側が、現在は「企業の社会的責任」として自然保護活動に取り組んでおり、このことにも、自然保護のたどった歴史が象徴されています。

「飯豊山」…入会したころの社会人山岳会はまだ若く、飯豊遠征などもやっていましたが、結局家族持ち女は参加できず。百名山を狙っての終盤に、やっと登れました。深田久弥も59歳の、百名山連載終了の直前に登りに行けた…とあり、「やっと」の感慨だけは重なりました。

宗教登山にちなむ地名や豊かな積雪による植物群は、白山に似ています。NHKの「日本百名山」放映は、どんどんバリエーション化していて、石転び沢からの登頂の方が紹介されていました。

「鹿島槍ヶ岳」…かつて、台風接近で赤岩尾根に下りてしまっていたため、「頂上を踏んでいない!」と、98山目としての登り直しに行った山です。

深田久弥は、「大好きな山」の容姿端麗さについて、特に紙面を使っているようです。確かに、遠望の中に鹿島槍を探していることは多いです。白馬山麓スキー場からの双耳峰は、素晴らしいですし、この山脈からの黒部の谷を挟んでの剣・立山も、絶景です。

昨年は、かつての1泊2日行程を、2泊3日にして歩き、「歳重ねて山河あり」とひとりごちてみました。

「剣岳」…一般コースの別山尾根と早月尾根のみが可、かつ経験値の私には、もちろん別格の山です。述べるほど、馬脚を露すだけ…なので、ネパールとの交流の話題に振りました。

芦峠寺の建設会社がカトマンズに支店をもち、シェルパのふるさとクンデ・クムジュン村の若者達を技術研修生として受け入れていました。石川ネパール協会の活動で、彼らとの交流ができ、日本語堪能な彼らをガイドにした、2000年の視察トレッキングでは、質問攻めの道中を楽しみました。

日本の夏山シーズンが、クンプのモンスーン時期に

あたり、双方に都合がよく、出稼ぎ兼登攀技術や救護技術訓練も行われています。8年後にも、剣沢で若者の一人と再会できました。

そんな2000年の初トレッキング時に、エヴェレストのアイスフォールでは、すでに工作済みで通行料をとっている事実や、シェルパが民族服や王族の服を着て、とか、16時間で登頂に成功している事実を知りました。日本では、協賛金を得たり、英雄視されたいために、故意に曲げた報告や報道がなされているのです。以来、私の「山世界やヒマラヤ」報道に対する色眼鏡は、かかりっぱなしです。



《8年ぶりのアンヌール君と 剣沢 2008.8.9》



《佐川町のマンホールの蓋 2023.9.24》

「横倉山」…2023年度前期朝ドラ「らんまん」に登場した山です。

牧野富太郎について、「雑草という名の草はない」のフレーズの他には、山野草の命名者である…以上の知識を持ちませんでした。関連本も多く出ましたので、時代背景に、家庭事情、研究最前線での熾烈など、実に面白かったです。

横倉山は、牧野富太郎のフィールドといえる山ですが、恐竜化石が発見された石灰岩質の山であり、安徳天皇の陵墓参考地があり、そこに「ここは、滑落シーンを撮った所です。映らない場所に200人が控えてい

ました」といったロケ地の説明も加わりました。

「旬の山」のコオロギランが見られる場所は「押すな、踏むな」状態になっていました。

さて、8月末にて、「金沢ナカオ山岳会」は閉会となりました。ワングル現役が4年間として、ナカオ山岳会歴は40年。うち、何回目かの分裂をしてからも18年になりました。今回は、分裂後の2代目会長にあたる方が、「人はこの世に生まれて、必ず死ぬものである。金沢ナカオ山岳会も…」の遺文を託され、幕引きの責を負って逝かれました。

自らが「辞める」とするときには、それなりの理由やエネルギーが必要なもの…。なおかつ、その後もひきずってしまいます。こんな幕切れの仕方が、かえってありがたいのかもしれない。

郷土の山の調査に実績をあげた会でしたが、その分、縛りも多かった…分裂のお蔭で、自由な山行ができるようになりました。ちょうど子育て終了といえる時期であり、体力もまだあり「日本百名山」も「海外トレッキング」も楽しめました。また、デジタルに移り行く時代にさしかかってもいました。ポジフィルムは高価で、その後の保管、データ管理も大変でした。PCに取り込んで、その後を自在に加工でき、共有できる…は、山遊びを豊かにしました。

この「やまざと」の3号前あたりから、やたらと「老いと山とのすり合わせ」をテーマにしています。つまりは、加齢のジタバタをやっているのです。

加齢はいつの時代にもつきものですが、コロナ禍や地震のような事件がおきれば、下り坂の斜度がさらにきつくなります。でもそれは、引き際のけじめをつけ易くなった…ということかもしれません。

高齢登山者の事故を耳にするたび、それらは他山の石なのかも…。ドジな「山仕舞い」をやる前に、いい思い出をたっぷりのままで…でも十分ではないか？

この夏は、猛暑籠りをして我が家年表をまとめていました。「〇〇はいっだけ？」が、すぐ調べられるように…の字引レベルです。行っておけば…の後悔のないほどに遊んできました。特に、子育て終了記念（末っ子が金大に入り、塾をバイト代わりに任せられた）とした2005年は、実によく飛び出していました。

4月のシッキムトレッキングではサブリーダーとし

ての谷口けいさんに出会い、2011年の講演会につながりました。



《我が家の玄関先で谷口けいさんと 2011.2.11》

8月には、カラコルムデビュー。10月には、29期深井君の後押しによる英断？で、ネパール・クンプでの28日間トレッキングにチャレンジ。主婦が軸足の私は、非正規仕事にしかタッチできませんでした。ならば、正規雇用なら決してやれないような旅をやりたい！…が、ゴーキョ・カラパタル・チュクンの三大展望地巡りでした。



《夕映えのローツェ南壁 チュクン 2005.11.14》

また、先の2000年の時点で、どうして、そんなにエヴェレストを見に行きたかったのかといえば…兄嫁の早逝で、母が主婦に返り咲いた事件からでした。

はたと、その時母は74歳だった！と気づきました。まだまだ、まだまだ、何が起きるか判らない…油断するな！を思う、2024年です。（執筆時点で、能登にはさらに洪水や土砂崩れがおきています。）

OB会報も、形態変えとなります。こちらもち続可能スタイルへ…ということですね。

この投稿…ひとまず、「無事のお知らせ」です。